



三宮 十五郎 議員
日本共産党弥富市議団

問 高すぎる国保税の引き下げを

答 補助継続を要望していく

問 全国知事会の「1兆円の公費を投入し、協会けんぽ並みの保険料に」の立場に賛同し、市長会としても積極的な役割を果たせるように尽力を。

答 〔民生部長〕 機会を捉え、公費の増額を要望していく。

問 県に独自の補助金の復活を求める。

答 国や県からの補助の継続を要望していく。

問 市として必要な支援を求め以下を問う。
30年度分の納付金と国保税などの1人当たりの財源内訳は。

答 保険基盤安定などの繰入金相当額と国保税を差し引いた差額、被保険者1人当たりの一般分の法定外繰入金相当額は1921円。

問 31年度分の値上げを抑える市独自の取り組みは。

答 後発医薬品の勧奨や、健康推進事業を行い医療費の抑制につなげる。

また、早い段階で電話や訪問による納付相談を行い収納率向上に努める。

問 減免基準を分かりやすく合理的なものに。

答 現行制度を維持する。

問 滞納処分の停止を適切に行うべきでは。

答 〔収納課長〕 租税負担の公平性を鑑み、慎重に対応する。

問 中学生の広島研修の役割は
答 人としての成長に大きく寄与

問 人としての成長と学校教育の中で広島研修がどういう役割を果たしてきたか。

答 〔教育長〕 命の尊さ、人権尊重の精神を生かし、自他を大切にすることを育む。

問 8年間の関係者の努力、広島の人達との交流は、戦争と被爆体験を今日の若い世代に引き継ぐ「弥富モデル」としてさらに大切にすべきでは。

答 体験した生徒には平和

に対する思いが根付いている。今後も継続して行いたい。

問 学校教育や市民の暮らしに大きな変化を伴う制度の変更については、当事者との事前協議や合意で市民に開かれ、市民とともに歩むという立場を求めるが。

答 〔市長〕 財政の安定化を図る上で、事業の継続をためらっていた。今後は計画的かつ慎重に判断していく。



▲今後も継続が決定した中学2年生の広島研修